

人文系/基礎科目

科目名		サブタイトル		担当教員	配置学年	単位数
哲学 A		現代哲学入門		関 修	1 年次前期	2
科目区分	基礎	キーワード	現象学、生の哲学、言語哲学、実存主義、構造主義			
ディプロマポリシーとの対応		1. 時代や社会の要請に対応できる能力				
カリキュラムポリシーとの対応		1. 一般教養および専門的（交通・観光関係）な知識と実践力とを総合的に身につける				
事前に受講するとよい科目		特になし				
オフィスアワー		授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応します。				
講義の目的	西洋哲学が西洋文明をどのように基礎づけ、支えてきたかを考察する。その際、とりわけ現代諸科学がどのような関係性にあつたかを充分考慮する。また、二度の世界大戦など、理性信仰が大きく揺らいだ後に、現在をどう生きるべきかを考える。					
到達目標	西洋のものの考え方を知り、いかに「合理的＝理性的」即ち「論理的」に考える必要があるかを理解し、受講者自身がそれを体現できるようにする。また、その際「言語」がいかに大切かを実感できるようにする。					
講義内容	二十世紀の西洋哲学を概観する。二十世紀は「言語の世紀」と言われるように言語をどう考えるかをその基礎において話を進める。また、当然のごとく、諸科学との関係、また、二度の世界大戦など歴史的な状況もかんがみて講義する。					
講義スケジュール		タイトル	内容			
	第1講	ガイダンス	哲学とは何か？この講義の勉強の仕方について			
	第2講	はじめに	現代の始まり 十九世紀末の精神状況			
	第3講	世界大戦前の哲学 I	現象学 フッサール			
	第4講	世界大戦前の哲学 II	生の哲学 ニーチェ、ベルグソン			
	第5講	世界大戦前の哲学 III	言語学、言語哲学 ソシュール、ヴィトゲンシュタイン			
	第6講	実存主義 I	サルトル 『存在と無』			
	第7講	実存主義 II	メルロ＝ポンティ 『知覚の現象学』			
	第8講	実存主義 III	ハイデgger 『存在と時間』			
	第9講	構造主義 I	構造主義とは何か 諸学とのクロスオーバー			
	第10講	構造主義 II	レヴィ＝ストロース 文化人類学			
	第11講	構造主義 III	ロラン・バルト 文学・文化批評			
	第12講	ポスト構造主義 I	フーコー 権力と性			
	第13講	ポスト構造主義 II	ドゥルーズ アンチオイディプス			
	第14講	ポスト構造主義 III	デリダ 脱構築と歓待の哲学			
	第15講	まとめ	これからの哲学の行方			
指導方法	講義中心。毎回、グーグルクラスルームを用いて、質問・感想・意見を「課題」として出し、次回それらに応答する。					
事前学習	授業前の事前学習として、各回のテキスト該当ページを一読し、未習の用語等について明らかにし、課題をもって授業に臨むことが必要である。1時間30分程度の学習時間が目安である。					
事後学習	授業後の事後学習として、授業時に学習した以外の事例について参考文献を調べ、自分で考察をまとめることにより授業で学んだ知識が定着し、理解を深めることができる。1時間30分程度の学習時間が目安である。					
成績評価方法	平常点（授業内発言、課題の提出回数・内容）70%、本試験（筆記試験、すべて持ち込み可）30%					
テキスト	特に定めなし					
参考書籍	アルトヴェーク／シュミット、小野島・関他訳、『グラウンド・ゼロ』（富士書店）他は適宜紹介していく。					
実務家教員による授業		教員経歴				
特記事項	講義中の私語は禁止 減点の対象となります。					

科目名		サブタイトル		担当教員	配置学年	単位数
哲学B		哲学としての精神分析入門		関 修	1年次後期	2
科目区分	基礎	キーワード	精神分析、フロイト、ユング、ラカン、カウンセリング			
ディプロマポリシーとの対応		1. 時代や社会の要請に対応できる能力				
カリキュラムポリシーとの対応		1. 一般教養および専門的（交通・観光関係）な知識と実践力とを総合的に身につける				
事前受講するとよい科目		哲学A				
講義の目的	私＝自我＝自己意識というものの自明性は「無意識」という心のもう半分の部分の発見で大きく揺らいだ。精神医学、心理学との関係性の中で「精神分析」がどのように現代を生きる上で重要な学問であるかを哲学的に考察する。また、カウンセリングが言語を介することの重要性を理解する。					
到達目標	自分自身の心を見つめるヒントを得、適切な行動を取れるようにする。また、異性やマイノリティなど他者への理解を持ち、社会的に自立した人間性を確立する一歩を踏み出せるようにする。					
講義内容	カウンセリングの基礎となった「精神分析」について、その誕生から現在までを概観する。その際、精神医学、心理学との関係性を考慮する。また、フェミニズムやLGBTといった現代の問題との関連性を積極的に取り上げる。					
講義スケジュール		タイトル	内容			
	第1講	ガイダンス	精神分析とは何か？この講義の勉強の仕方について			
	第2講	はじめに	無意識の発見 精神分析前史			
	第3講	精神分析の位置づけ I	精神医学との関係			
	第4講	精神分析の位置づけ II	心理学との関係			
	第5講	精神分析の位置づけ III	フロイトとユング			
	第6講	精神分析の位置づけ IV	フロイトからラカンへ			
	第7講	フロイト I	精神分析の創設 催眠から自由連想法へ			
	第8講	フロイト II	夢の解釈			
	第9講	フロイト III	心を動かす力としての性 リビドー、欲望			
	第10講	フロイト IV	超自我の導入 死の欲動			
	第11講	ラカン I	出発点としての鏡像段階論			
	第12講	ラカン II	三界理論 現実界 想像界 象徴界			
	第13講	ラカン III	シニフィアンの連鎖			
	第14講	ラカン IV	カウンセリングの在り方 短期分析			
第15講	まとめ	これからの精神分析				
指導方法	講義中心。毎回、グーグルクラスルームを用いて、質問・感想・意見を「課題」として出し、次回それらに回答する。					
事前学習	授業前の事前学習として、各回のテキスト該当ページを一読し、未習の用語等について明らかにし、課題をもって授業に臨むことが必要である。1時間30分程度の学習時間が目安である。					
事後学習	授業後の事後学習として、授業時に学習した以外の事例について参考文献を調べ、自分で考察をまとめることにより授業で学んだ知識が定着し、理解を深めることができる。1時間30分程度の学習時間が目安である。					
成績評価方法	平常点（授業内発言、課題の提出回数・内容）70%、本試験（筆記試験、すべて持ち込み可）30%					
テキスト	特に定めない					
参考書籍	サミュエルズ、関修訳、『哲学としての精神分析入門』（夏目書房） 他は適宜紹介していく。					
実務家教員による授業	教員	経歴				
特記事項	講義中の私語は禁止 減点の対象となります					

科目名		サブタイトル		担当教員	配置学年	単位数
歴史学A		民俗学・社会的に生活の歴史を理解する		濱 雄亮	1年次前期	2
科目区分	基礎	キーワード	民俗学・近代化・生活史			
ディプロマポリシーとの対応	1. 時代や社会の要請に対応できる能力					
カリキュラムポリシーとの対応	1. 一般教養および専門的（交通・観光関係）な知識と実践力とを総合的に身につける					
事前に受講するとよい科目	特になし					
オフィスアワー	金曜日（13:00～16:00）・土曜日（13:30～15:00）					
講義の目的	民俗学的・社会学の理論に基づいて、近代化に伴う一般の人々の生活の変化や歴史を学ぶことを目的とします。主に日本の近現代史を扱いますが、部分的に江戸時代以前や外国のことも扱います。偉人や政治に焦点を当てた高校までの歴史教育とは異なります。					
到達目標	近代化に伴う生活の変化や人々の生きざまと歴史の多面性について、具体例と民俗学・社会学の理論に基づいて説明できることを目指します。					
講義内容	近代化に伴う生活の変化について（例：共同体重視から個人重視へという変化）、様々な対象についての具体例を多く紹介します（外国も含む）。また、女性史・無文字社会の歴史などについても紹介します。人々の生きざまは今も変化の途上であることについての実感を得られるようにします。予備知識はとくに必要ありません。					
講義スケジュール		タイトル	内容			
	第1講	イントロダクション	歴史を学ぶ意義とは何か			
	第2講	生活の歴史と変化(1)	国内の移動の活発化は何をもたらしたか			
	第3講	生活の歴史と変化(2)	国際移動はなぜ起きるのか・何をもたらしたのか			
	第4講	生活の歴史と変化(3)	食事・酒のあり方はどのような変遷をたどったのか			
	第5講	生活の歴史と変化(4)	結婚・家族のあり方はどのような変遷をたどったのか			
	第6講	生活の歴史と変化(5)	名前の役割や特徴とは何か			
	第7講	生活の歴史と変化(6)	方言の特徴や方言をめぐる現代的变化とは何か			
	第8講	生活の歴史と変化(7)	言語（学）的にみた日本語の特徴とは何か			
	第9講	生活の歴史と変化(8)	墓と先祖供養の特徴とは何か			
	第10講	各地の歴史と文化(1)	東アジアの文化（「家族・宗教」を中心に）			
	第11講	各地の歴史と文化(2)	アフリカの文化（「声・音」による無文字情報伝達）			
	第12講	生活の歴史と変化(9)	宗教と近代化の特徴とは何か			
	第13講	バーチャル見学会	歴史的行事・博物館のバーチャル見学			
	第14講	生活の歴史と変化(10)	日本文化の源流：地域と暮らし			
第15講	総括	トランスナショナリズム、総括				
指導方法	講義形式です。動画・写真も用います。なお、「**と聞いて思いつくこと」などをその場で質問しその答えを即興で講義に生かすこともあります。毎回、コメント記入などの授業内課題を課します。					
事前学習	シラバスに挙げられている項目について事典・書籍・信頼できるウェブサイトによって概要を調べて下さい。自分や家族の経験を振り返ることも有用です。1時間30分程度の学習時間が目安である。					
事後学習	授業中に紹介した書籍や配布物の読解や、自ら関連映像資料を探して視聴して下さい。支障のない範囲で自分や家族の経験を振り返ってください。1時間30分程度の学習時間が目安である。					
成績評価方法	平常点（授業内課題）：60%、本試験（筆記試験）：40%。					
テキスト	使いません。紙の資料を配付します。					
参考書籍	川田順造『無文字社会の歴史』講談社、2001年。宮本常一『忘れられた日本人』岩波書店、1984年。柳田国男『明治大正史 世相篇』講談社、1993年。他にもその都度紹介します。					
実務家教員による授業	教員	経歴				
特記事項	伝統的な祭りや博物館の見学会を行う場合があります。ただし参加を義務とすることはありません。					

科目名		サブタイトル		担当教員	配置学年	単位数
歴史学B		文化人類学的に文化の歴史と多様性を理解する		濱 雄亮	1年次後期	2
科目区分	基礎	キーワード	文化人類学・文化・江戸と東京			
ディプロマポリシーとの対応		1. 時代や社会の要請に対応できる能力				
カリキュラムポリシーとの対応		1. 一般教養および専門的（交通・観光関係）な知識と実践力とを総合的に身につける				
事前に受講するとよい科目		歴史学A				
オフィスアワー		金曜日（13:00～16:00）・土曜日（13:30～15:00）				
講義の目的	「文化」の歴史と多様性・共通性を分析する文化人類学的な考え方を学ぶこと、身体をめぐる文化の多様性や共通性を学ぶこと、江戸・東京の歴史（文化史）や文化財や文化政策について学ぶことを目的とします。それを通して、グローバル化が進化した時代に必要とされる、異文化や自文化について自省的に考える能力の基礎を身につけられるようにします。					
到達目標	「文化」の歴史と多様性・共通性の背景について具体的に説明できること、「文化」を比較する方法を具体的に説明できること、文化史や文化財や文化政策とその問題点について具体的に説明できること、以上の3点を目指します。					
講義内容	「文化」について、他の地域の例や過去の例と照らし合わせて広い視点で多くの具体例を紹介し、ここでいう「文化」には、食事やあいさつや親戚付き合いの方法など、私たちが「当たり前」と思っている多くの行動や常識を含みます。また、私たちが生活している東京・豊島区の歴史についても紹介します。予備知識はとくに必要ありません。					
講義スケジュール		タイトル	内容			
	第1講	文化人類学の理論(1)	「文化」とはなにか			
	第2講	文化人類学の理論(2)	儀礼：成人式はなぜ荒れるのか			
	第3講	文化人類学の理論(3)	呪術・妖術：呪いは遠い世界のどこか			
	第4講	文化人類学の理論(4)	交換と経済：「おごる」ことの意味とは			
	第5講	身体をめぐる文化(1)	身体観の歴史性			
	第6講	身体をめぐる文化(2)	出産はどのような変遷をたどったのか			
	第7講	身体をめぐる文化(3)	子育てはどのような変遷をたどったのか			
	第8講	身体をめぐる文化(4)	病気・身体と差別はどのように結びつくのか			
	第9講	身体をめぐる文化(5)	老いはどのように経験されてきた／いるのか			
	第10講	身体をめぐる文化(6)	死はどのように経験されてきた／いるのか			
	第11講	文化人類学の理論(6)	グローバル化するポピュラーカルチャー			
	第12講	文化人類学の理論(7)	季節の変わり目の行事のグローバルな共通性			
	第13講	文化史と文化政策(1)	文化の客体化と文化財保護、そしてその課題			
	第14講	文化史と文化政策(2)	現代と江戸時代の連続性・豊島区の歴史			
第15講	文化史と文化政策(3)・総括	動物と人間の関わりの変遷・総括				
指導方法	講義形式です。動画・写真も用います。なお、「**と聞いて思いつくこと」などをその場で質問しその答えを即興で講義に生かすこともあります。毎回、コメント記入などの授業内課題を課します。					
事前学習	シラバスに挙げられている項目について事典・書籍・信頼できるウェブサイトによって概要を調べて下さい。自分や家族の経験をふり返ることも有用です。1時間30分程度の学習時間が目安である。					
事後学習	授業後の事後学習として、授業時に学習した以外の事例について参考文献を調べ、自分で考察をまとめることにより、授業で学んだ知識が定着し、理解を深めることができる。1時間30分程度の学習時間が目安である。					
成績評価方法	平常点（授業内課題）：60%、本試験（筆記試験）：40%。					
テキスト	使いません。紙の資料を配付します。					
参考書籍	波平恵美子〔編〕『文化人類学 カレッジ版』第3版、医学書院、2011年。道信良子〔編著〕『いのちはどう生まれ、育つのか』岩波書店、2015年。他にもその都度紹介します。					
実務家教員による授業	教員	経歴				
特記事項	伝統的な祭りや博物館の見学会を行う場合があります。ただし参加を義務とすることはありません。					

科目名		サブタイトル		担当教員	配置学年	単位数
心理学 A		人間行動の科学		兼高 聖雄	1 年次前期	2
科目区分	基礎	キーワード	人間行動の分析のための基礎			
ディプロマポリシーとの対応	1. 時代や社会の要請に対応できる能力					
カリキュラムポリシーとの対応	1. 一般教養および専門的（交通・観光関係）な知識と実践力とを総合的に身につける					
事前に受講するとよい科目	特になし					
オフィスアワー	授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応します。					
講義の目的	心理学という 人の行動を科学的に分析しようとする学について学び 科学的な行動分析のありかたを理解することを基本的な目標とする／さらに学んだ知識を応用的に適用する力を身につける。					
到達目標	人の行動 特に社会的な行動について考えるための心理学の基礎となる知識をもつこと。 心理学のさまざまな研究成果を通じて 日常の行動を分析する方法を体感すること。					
講義内容	心理学の基礎を「人の情報処理」と「行動とパーソナリティ」の2つにわけて説明します。 事例やテストを行いながら体感的に理解するようにしていきます。 マーケティングや安全管理・産業心理学など 多くの社会的行動の分析で基礎となる考えをできるだけ紹介していきます。					
講義スケジュール		タイトル	内容			
	第1講	心理学とは何か	心理学のさまざまな領域とこの授業の方向性			
	第2講	講義の目標	行動の関数 $B = f(P, E)$ について知る			
	第3講	人の情報処理	人はどう世界を見るのか 1 感覚の世界			
	第4講	人の情報処理	人はどう世界を見るのか 2 感覚の科学			
	第5講	人の情報処理	人はどう世界を見るのか 3 感覚と知覚			
	第6講	人の情報処理	人はどう世界を見るのか 4 知覚と「知能」			
	第7講	人の情報処理	情報を記憶すること			
	第8講	人の情報処理	思考と創造性			
	第9講	行動とパーソナリティ	人の行動を制御する 行動心理学			
	第10講	行動とパーソナリティ	人の行動の背景 1 欲求の心理学			
	第11講	行動とパーソナリティ	人の行動の背景 2 態度の形成と行動			
	第12講	行動とパーソナリティ	人の行動の背景 3 態度と説得			
	第13講	行動とパーソナリティ	パーソナリティ 自分を知ろう			
	第14講	行動とパーソナリティ	パーソナリティ パーソナリティの理論			
第15講	まとめとふりかえり	質疑とまとめ 最終課題の解説				
指導方法	授業は講義の後の演習的課題とその振り返りを含む反転形式をとりいれて行います。 課題は Classroom を利用して提出します。					
事前学習	授業前の事前学習として 各回のノートなどをよく整理し また講義内容についての課題結果から不明点などを明らかにしておくことが求められる。1 時間 30 分程度の学習時間が目安。					
事後学習	講義後に学んだことを応用しながら自ら演習的に行う課題があります。 これを指定された期日までこなしオンラインで提出します。1 時間 30 分程度の学習時間が目安。					
成績評価方法	平常点＝教室内レスポンスとオンライン課題 40% 最終試験＝レポート課題 60%					
テキスト	特に指定しない					
参考書籍	授業内で指示し Classroom で掲示する					
実務家教員による授業	教員	経歴				
特記事項						

科目名		サブタイトル		担当教員	配置学年	単位数
心理学B		人間行動の分析		兼高 聖雄	1年次後期	2
科目区分	基礎	キーワード	社会行動の分析			
ディプロマポリシーとの対応	1. 時代や社会の要請に対応できる能力					
カリキュラムポリシーとの対応	1. 一般教養および専門的（交通・観光関係）な知識と実践力とを総合的に身につける					
事前に受講するとよい科目	心理学A					
オフィスアワー	授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応します。					
講義の目的	多様な社会行動を 人間を中心に科学的に分析した事例やその背景を理解し、みずからもさまざまな社会現象や行動を分析する力を身につけます。					
到達目標	現実のさまざまな社会行動を 心理学のさまざまな理論を用いて分析すること。 より応用的な心理学研究を学んで 実際の社会現象や社会行動に目を向けられること。					
講義内容	心理学Aでの知識を前提に、現実の社会現象や社会行動をテーマにしなが、心理学・社会心理学での実際の研究を紹介しながらその分析を考えてゆきます。応用的なテーマを考えることで、他の専門科目の内容との連携、将来社会生活や業務の中で出会うであろう事象との関連を意識しながら行います。					
講義スケジュール		タイトル	内容			
	第1講	社会行動とは何か	講義の全体像を示します			
	第2講	集団と組織	人が集まるとはどういうことか			
	第3講	組織とリーダーシップ	集団から組織になること			
	第4講	ストレスと行動	ストレスってなんだ？			
	第5講	能率、疲労、作業の安全	安全とミス心理学			
	第6講	集団とコミュニケーションとは	コミュニケーションの基礎理論			
	第7講	集団とコミュニケーション	メディアとアーキテクチャー			
	第8講	消費者行動	広告ってなんだろう			
	第9講	消費者行動	テレビCMの歴史			
	第10講	消費者行動	説得とマーケティングコミュニケーション			
	第11講	消費者行動	アイドルとマーケティング			
	第12講	メディアと人々	SNS利用の社会心理学			
	第13講	メディアと人々	若者世代の社会心理学			
	第14講	メディアと人々	音楽とメディアとわたしたち			
第15講	まとめとふりかえり	質疑とまとめ 最終課題の解説				
指導方法	授業は講義の後の演習的課題とその振り返りを含む反転形式をとりいれて行います。 課題は Classroom を利用して提出します。					
事前学習	授業前の事前学習として、各回のノートなどを一読し、また講義内容についての課題結果から不明点などを明らかにしておくことが求められます。1時間30分程度の学習時間が目安。					
事後学習	講義後に学んだことを応用しながら自ら演習的に行う課題があります。これを指定された期日までこなしオンラインで提出していきます。1時間30分程度の学習時間が目安。					
成績評価方法	平常点＝教室内レスポンスとオンライン課題 40% 最終試験＝レポート課題 60%					
テキスト	特に指定しない					
参考書籍	適宜 Classroom にて提示する					
実務家教員による授業	教員	経歴				
特記事項						

科目名		サブタイトル		担当教員	配置学年	単位数
文学A		文学から近代日本の人々を見る		玉置 文弥	1年次前期	2
科目区分	基礎	キーワード	悩み、夏目漱石、橋川文三、近代日本			
ディプロマポリシーとの対応		1. 時代や社会の要請に対応できる能力				
カリキュラムポリシーとの対応		1. 一般教養および専門的（交通・観光関係）な知識と実践力とを総合的に身につける				
事前に受講するとよい科目		特になし				
オフィスアワー		授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応します。				
講義の目的	「文学」と聞いて何を思い浮かべるでしょうか。一見、「現実」とはあまり関係のないもののように思われるかもしれませんが。しかし実のところ「文学」は、例えば人々の精神的悩みや社会状況などの「現実」を、それぞれの時代に様々な形で表し、時に「現実」をえぐることもありました。本講義では、その視点から文学を用い、近代日本とそこでの人々のすがたをとらえることを目的とします。					
到達目標	本講義では、「文学」的視点から近代日本を考えてきた橋川文三という人物の論考と、かの有名な夏目漱石『こころ』を中心に扱います。それらに触れることで、その内容や構造がどのようなものかを理解し、近代日本とはなんであったかについて内面的に考えることができるようになることを目標とします。また論考や文学作品を読む経験も味わってもらいたいと考えます。					
講義内容	橋川文三による論考および夏目漱石『こころ』の読解と、近代日本の歴史や社会状況の解説を中心として進めます。本講義では、多少難解な文章も取り扱いますが、それによって難しい理論や知識を暗記してもらうのではなく、その時代に自分自身が生きていたらどうだっただろうか、ということの内面的に考えるヒントにしてほしいと思います。					
講義スケジュール		タイトル	内容			
	第1講	ガイダンス	講義の全体像・ねらい・評価方法の説明と質疑応答			
	第2講	文学と現実の関係？	文学の虚構性と現実社会の関係についての考察			
	第3講	近現代日本の歴史	明治から昭和戦前期の歴史の解説			
	第4講	現代と過去の共通性？①	現代／戦前期における人々の悩みとその共通性の考察			
	第5講	橋川文三とは誰か？	橋川文三に関する基本情報の紹介とその問題意識の検討			
	第6講	文学から見る近代の人々①	橋川文三「明治の終焉」の読解・解説			
	第7講	文学から見る近代の人々②	橋川文三「青年層の心理的転移」の読解・解説			
	第8講	文学から見る近代の人々③	橋川文三「明治青年の疎外感」の読解・解説			
	第9講	文学から見る近代の人々④	橋川文三「樗牛と啄木」の読解・解説			
	第10講	近代という悩み①	夏目漱石『こころ』の映画（市川崑監督）前半鑑賞			
	第11講	近代という悩み②	夏目漱石『こころ』の映画（市川崑監督）後半鑑賞			
	第12講	近代という悩み③	夏目漱石『こころ』の読解			
	第13講	近代という悩み④	夏目漱石『こころ』の読解			
	第14講	現代と過去の共通性？②	これまでの講義を踏まえ再び現代と過去の共通性を考察			
第15講	まとめ	全回の振り返り				
指導方法	基本的には講義形式で行います。ただし、授業内・外で自分の考察・感想を書く機会や質問に答える機会があります。					
事前学習	毎回の講義で、講読する文章と箇所、および読解ポイントを示しますので、必ず事前に読んでください。1時間30分程度の学習時間を目安とします。					
事後学習	講義内容を振り返るために、講義ノートやレジュメ、配布テキストなどを読み直してください。1時間30分程度の学習時間を目安とします。					
成績評価方法	本試験（レポート）50%、平常点（授業内レポート）50%					
テキスト	適宜解説する文章やレジュメなどを紙媒体もしくはデジタル資料などで配布します。					
参考書籍	授業内で紹介します。					
実務家教員による授業	教員	経歴				
特記事項	学生の興味・関心や進度に応じて、講義内容が前後したり内容が変更される場合があります。					

科目名		サブタイトル		担当教員	配置学年	単位数
文学B		文学から見る昭和戦前期の「窒息」と理想		玉置 文弥	1年次後期	2
科目区分	基礎	キーワード	悩み、理想、「満洲国」、「五族協和」、高橋和巳			
ディプロマポリシーとの対応	1. 時代や社会の要請に対応できる能力					
カリキュラムポリシーとの対応	1. 一般教養および専門的（交通・観光関係）な知識と実践力とを総合的に身につける					
事前に受講するとよい科目	文学A					
オフィスアワー	授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応します。					
講義の目的	タイトルに付けた「窒息」という言葉は仰々しく聞こえるかもしれませんが、しかし、日本の昭和戦前期（1920年代後半～1930年代）は、まさにそのような状態でした。その時、人々は何を求めたのでしょうか。本講義では、そんな時代の社会・人々について描いた小説の読解を通じて、当時の社会状況や精神状態がどのようなものだったかを考えていくことを目的とします。					
到達目標	本講義でとりあげる小説（高橋和巳『墮落』）は、「満洲国」をめぐる理想と現実の葛藤を描いたものですが、その文章に触れることで、その内容・構造がどのようなものなのかを理解し、近現代日本における「満洲国」という存在がどのようなものだったのか、さらには人々の悩みと理想、そして文学と現実社会の関わりについて考えるきっかけをつかむことを目標とします。					
講義内容	高橋和巳『墮落』のテキストの読解と、それにかかわる近現代日本の歴史や社会状況の解説を中心として進めます。これを通して、「文学と昭和戦前期の「窒息」と理想」というテーマを考えます。					
講義スケジュール		タイトル	内容			
	第1講	ガイダンス	講義の全体像・ねらい・評価方法の説明と質疑応答			
	第2講	文学と現実の関係？	文学の虚構性と現実社会の関係についての考察			
	第3講	高橋和巳とは誰か？	高橋和巳に関する基本的知識の紹介とその問題意識の検討			
	第4講	『墮落』と「満洲国」	『墮落』および「満洲国」に関する必要知識についての説明			
	第5講	文献講読①	「第一章 1～2」の読解・解説			
	第6講	文献講読②	「第一章 3～4」の読解・解説			
	第7講	文献講読③	「第一章 5～6」の読解・解説			
	第8講	文献講読④	「第二章 1～2」の読解・解説			
	第9講	文献講読⑤	「第二章 3～4」の読解・解説			
	第10講	文献講読⑥	「第二章 5～第三章 2」の読解・解説			
	第11講	文献講読⑦	「第三章 3～4」の読解・解説			
	第12講	文献講読⑧	「第三章 5～第四章 1」の読解・解説			
	第13講	文献講読⑨	「第四章 2～3」の読解・解説			
	第14講	文献講読⑩	「第四章 4～5」の読解・解説			
	第15講	まとめ	全回の振り返り			
指導方法	基本的には講義形式で行います。ただし、授業内・外で自分の考察・感想を書く機会や質問に答える機会があります。					
事前学習	毎回の講義で、講読する文章と箇所、および読解ポイントを示しますので、必ず事前に読んできてください。1時間30分程度の学習時間を目安とします。					
事後学習	授業後の事後学習として、授業時に学習した以外の事例について参考文献を調べ、自分で考察をまとめることにより、授業で学んだ知識が定着し、理解を深めることができる。1時間30分程度の学習時間が目安である。					
成績評価方法	講義内容を振り返るために、講義ノートやレジュメ、配布テキストなどを読み直してください。1時間30分程度の学習時間を目安とします。					
テキスト	本試験（レポート）50%、平常点（授業内レポート）50%					
参考書籍	適宜解説する文章やレジュメなどを紙媒体などで配布します。					
実務家教員による授業	教員	経歴				
特記事項	学生の興味・関心や進度に応じて、講義内容が前後したり内容が変更される場合があります。					